

平成17年度第1回 音環境運営委員会 議事録

記録：中澤

- A. 日 時 平成17年6月10日（金） 15時00分～17時00分
B. 場 所 建築会館307室
C. 出席者 平松友孝、赤尾伸一、岩瀬昭雄、大鶴徹、河井康人、岸永伸二、
坂本慎一、佐久間哲哉、佐藤哲身、中川清、中澤真司、羽染武則、
藤本一壽、安岡博人、吉久光一

欠席者 井上勝夫、古賀貴士、田野正典、濱田幸雄、吉村純一（敬称略）

D. 提出資料

- No.1-1 平成16年度第6回音環境小委員会議事録（案）（佐久間）
No.1-2 音環境運営委員会委員名簿（事務局）
No.1-3 2005年度環境工学委員会組織図（事務局）
No.1-4 2005年度第1回環境工学本委員会資料抜粋（事務局）
No.1-5 環境工学本委員会からの課題について（坂本）
No.1-6 委員会活動成果報告・現状の書式（坂本）
No.1-7 環境工学シンポジウム タイトルおよび主旨（事務局）
No.1-8 日本音響学会 騒音・振動研究委員会 6月以降予定（藤本）
No.1-9 ASJ-ASA Joint Meetingについて（大鶴）

E. 審議事項

1. 主査の交代について

- ・中澤幹事より、田野主査から体調不良のために主査を代わって欲しい旨の申し出があったとの紹介があり、審議の結果、田野主査の退任が承認された。
- ・藤本委員(前主査)から、新しい主査候補として平松委員の推薦があり、満場一致で承認された。

以下、平松新主査を議長として審議が行われた。

2. 自己紹介

3. 名簿の確認：資料No.1-2（平松）

- ・エクセルのファイルは、学会事務局、主査、幹事が保管している。
- ・印刷物の委員会内での配布が出席者全員から承認された。
- ・会員番号は不要では→事務局提出時に必要であったことからそのまま記載。
- ・ホームページ掲載等は所属と氏名に止める。
- ・岸永委員の所属は組織変更があり、修正する必要がある。
- ・藤本委員の「前主査」は「委員」に修正する。

4. 議事録の確認：資料No.1-1（佐久間）

- ・修正事項なし。承認された。

5. 2005年度環境工学委員会組織図について：資料No.1-3（平松）

- ・本年度から環境工学本委員会は環境工学委員会に名称が変わった。
→ 配布資料では、両方が使われている。事務局へ確認する。
- ・環境設計運営委員会>集合住宅WGに平松主査が参加。
- ・環境設計運営委員会>教育施設小委員会に高橋氏（BL）が参加。
さらに1名の委員を福地氏が人選中。
- ・環境設計運営委員会>環境アセスメント小委員会に藤本委員、大鶴委員が参加。
- ・企画刊行運営委員会>アカデミック・スタンダード小委員会に佐久間委員が参加。
- ・配布組織図に記載されている音環境運営委員会建物音響測定法小委員会は音環境運営委員会建築音響測定法小委員会に変更する旨を事務局に申し入れる。

6. 環境工学委員会報告：資料No.1-4（坂本）

- ・環境工学委員会の今年度重点審議項目は、①環境工学関連の教材検討、②小委員会の評価システムについて、③環境工学シンポジウムのあり方について、の3点。
- ・委員の推薦：奨励賞選考委員会委員 佐久間委員。技術報告集委員会委員 吉村委員。
- ・2006年大会は、9月7日（木）～9日（土）の3日間、神奈川大学の予定。
- ・環境工学本委員会の委員会活動成果報告提出状況は、53委員会中45委員会、提出率約85%で、他の本委員会に比べて最も小さい。
- ・環境工学本委員会のホームページ等開設状況は、53委員会中24委員会。ホームページの活性化に努める。
- ・今年度からプロジェクターによる発表を開始する。1セッション6題が基本。セッション間に3分の休憩を設け、その中でパソコン等をセットする。
- ・2005年大会で非公式行事等（委員会開催等）を行う場合は、平松主査宛に事務

局よ

り送付される申し込み用紙を用いて、7月29日までに事務局へ提出すること。なお、

非公式行事は必ず17時までに終わらせること。

・2005大会研究協議会「ワールドワイドな建築環境工学の研究・開発」、9月2日(金)

13:30～17:00 パネリスト、佐久間委員

・2005年大会PD「自然光を楽しむ近未来建築」、9月1日(木)13:00～17:00

・2005年大会環境工学部門懇親会、9月2日(金)18:15～20:30、パノラマスカイレスト

ランアサヒ。参加費：社会人6,000円（当日申し込みは7,000円）

・公募制に関する運営内規中に、小委員会の公募委員数は原則として全委員の1/3～

1/5 とすることが定められている。

・音環境運営委員会では、集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会と音響数値解析

小委員会のそれぞれに、各1名の公募委員が選考された。

・委員会等の運営に関する申し合わせ中に、委員の小委員会等兼任数を原則3以内と

することが示されている。

・ホームページの管理は各個で行うこと。運営委員会は運営委員会の責任で行う。

・本年度は、環境工学者名簿作成年に当たる。環境工学委員会広報小委員会（井上先

生、伊藤先生）が作成する。

7. 本委員会重点審議項目に対する意見（本委員会からの宿題）について：

資料No.1-5～1-7

1) 小委員会の評価システムについて

・現状の書式は学会全体で使用している。新評価システムの構築は環境工学委員会内

部の審議事項。

・何のために評価システムを作ろうとしているのか、目的がわからないので意見の出

しようがない。

・空衛学会のイメージがあるようだ。

・学術推進委員会へ環境工学本委員会の報告をするときの資料とするのではないか。

・ホームページで各小委員会の成果報告をみると、委員会によって記載密度にばらつきがある。

→ 現状の用紙でも適正に記載すればある程度の統一した評価ができるのではない

か。記載の不十分な委員会（活動が不十分な委員会）がそれなりに評価される

ような方法を考えればよい。

・記入用紙を作ったからといって正しい評価ができるわけではない。用紙は現状のま

までも、ありのままの姿が評価される方法を考えればよい。

・（無駄な）労力を掛けない方向で。成果のプレゼン&ヒアリングをしてはどうか。

・評価はどこが行うのか。

・評価の結果が悪かった場合、どうなるのか。評価の悪い委員会・ワーキングを解散

するのか。

・建築音響測定法小委員会意見：簡単で短い方がよい。活動報告は少し充実した方が

よい。活動は手弁当、あまり締め付けにならないように。

・環境工学シンポジウムで成果報告を行うようにすれば。

・次回環境工学委員会では、以上の結果をまとめて平松主査が報告する。

2) 環境工学シンポジウムのあり方について

・シンポジウムは、相互の情報交換が目的。

・綿密な動員計画を行えば、参加者は増える。

・時間が短い。卒論や修論の発表のよう。

・間際になってからの会告が多く、時間の調整がつかない。アナウンスを充実する

必要がある。

・全体の理念、方向性を示すいい機会。

・毎年が多い。

・現状のままの形態でシンポジウムを行うのであれば、やめても良い。

・各運営委員会の活動報告がなされても意味がない。

・つまらない。単に各運営委員会の活動報告をやられても共有できるものがない。

情報交換にならない。

・シンポジウムのタイトルに沿った内容を各運営委員会でまとめていない。

・これまでシンポジウムのタイトル・主旨は、執行部が決めていたことが多い。

- ・参加者を増やしたいのであれば大会の場を利用すればよい。
- ・時期が悪い。たとえば大会プログラム編成会議のときに開催すれば人は集まる。
- ・年度末を狙ってやる必要はない。
- ・対象は運営委員会メンバーか。だとすれば、年度始めでもよいのでは。
- ・発表する運営委員会をセレクトしてホールで時間をかけてやればよい。
- ・現状、本委員会のメンバーの参加程度なので、本委員会の場で毎回2件位運営委員
会報告をすればよい。
- ・資料は無料でダウンロードできるように7回シンポジウムからしている。ただし、あまり知られていない。アピール不足。
- ・シンポジウムを小委員会の評価システムとからめ成果報告会にすれば、本委員会と
小委員会の双方の要望が合うのではないか。

◇次回環境工学委員会では、以上のことをまとめて報告する（平松）

8. 小委員会・WG活動報告

○音響数値解析小委員会（大鶴）

- ・本日第1回委員会を開催。公募委員1名あり。本年度活動計画を審議した。討論会の
ようなものを秋以降に開きたい。

○集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（羽染）

- ・第1回小委員会を実施した。今年度に新たに加わったメンバーが全委員数の半分の
を占める。今後の進めるべき方向の検討。アンケート調査結果の整理。デベロッパー
を中心に評価水準に関するヒアリングの協力要請（案内状）を送付した。ゼネコンも
評価水準を持っていればヒアリングに加える。今週位からヒアリングを開始する。都
心部
20社、3グループで分担して行う。次回小委員会は6/24に行う。

○固体音小委員会（平松）

- ・4/18と5/27の2回、設備機器に伴う固体音検討WGと合同で小委員会を開催し

た。活動

の方向性を議論。7/25のシンポジウムタイトルは「床衝撃音の今後を考える」とした。

内容にWG報告を含む。

○建築音響測定法小委員会（赤尾）

・これまでに2回開催した。1)短時間測定法、2)Labs測定法、3)板のインピーダンス

測定法、の3項目について審議を進める予定。今後の活動の方向性について議論した。

○室内音響研究小委員会（岸永）

・6/24に第1回小委員会を予定している。過去の出席状況、目的の明確化・絞り込み等に

より、15名の委員構成を13名に縮小した。公募を実施した（採用者：0）。活動の方

向性等を検討する予定。

○企画・広報WG（中川）

・聖学院大学チャペルの見学会を劇場・ホール小委員会、音響学会・建築音響研究会との

共催で行ったが、盛況であった。

・今年度の活動として、例年同様に出版物の見直しに関する提言を行う。また、刊行物等

での企画および執筆に関する提言を行っていく。これは、音響技術者向けというよりも

他分野に対する音響技術のアピールを主眼として行っていく予定。

・松本や川崎で行ったホール見学会では設計者を巻き込んだ企画が成功したと評価してい

る。今後も建築学会内の計画系の委員会と共催にするなど他分野との連携を図る方向で

企画立案する。また、コンサート等の催しも併せて企画する。

○音環境アカデミック・スタンダードWG（佐久間）

・6/22の企画刊行運営委員会アカデミック・スタンダード小委員会開催後の開催を考

えている。7月までに第1回を開きたい。学校建築の次に何を対象とするかが課題。

音運

営委員会で意見があればお知らせください。年4回の開催をイメージしている。

○その他

- ・メーリングリストを再構築する。
- ・事務局大野氏に各委員会の最新名簿を保管しているかを確認し、未提出がある場合は
平松主査名か大野さん名で提出依頼を出す。
- ・各委員が他の委員会・WGのメンバーを知る必要があるとの判断から次回に各委員会・
WGの名簿を配布することとした。なお、この名簿は委員会名とメンバーの名前、
所属
だけを記載したものとする。

9. その他

○騒音・振動研究委員会6月以降予定：資料No.1-8（藤本）

○建築音響研究委員会6月以降予定（大鶴）

- ・6/17大分大聴覚研と合同
- ・7/28神戸大（6件）
- ・8/1 アコースティックイメージング、騒音研合同
- ・9月 休会
- ・10月 韓国？
- ・11月 北、音楽音響と合同？

○ASJ-ASA Joint Meetingについて：資料No.1-9（大鶴）

- ・建築音響幹事 佐藤洋先生、大鶴委員
- ・スペシャルセッションに案がある委員は、直接大鶴委員へ連絡してほしい。
（インターノイズと重ならないように）
- ・Green Building Design of Acoustics？ 省エネ？米国は政策的？

○騒音制御工学会2005年秋季発表会申し込み依頼（吉久）

- ・本年秋季発表会は、9/15,16に横浜国大で実施する。
- ・論文発表申し込み、現在、52件。70～80件欲しい。来週まで可。

来年は愛知工大、成瀬先生

○今後の音環境運営委員会開催予定

- ・第2回：8月19日（金）17:00～
- ・第3回：10月13日（木）17:00～
- ・第4回：12月8日（木）17:00～

次回の当委員会は、8月19日（金）17時00分より19時00分まで本会会議室で開催します。

- 議題(1) 環境工学委員会報告
- (2) 環境工学シンポジウム, 小委員会評価システムについて
 - (3) 小委員会・WG報告
 - (4) その他

資料を提供される方は、あらかじめ(15部)準備されるか、事前(委員会3日前まで)に
原紙を事務局、大野氏へ送付してください。